

## 平成 24 年度第 2 回宇都宮大学経営協議会議事要録

日 時 平成 24 年 5 月 30 日（水）10 時 00 分～11 時 50 分  
場 所 宇都宮大学本部第一会議室  
出 席 者 進村，飯村，板橋，牛山，亀井，橋本，浜村，築，石田，井本，茅野，加藤，  
内山，海野，池田，杉田の各委員  
伊藤監事，吉田監事，塚本副学長，重田学長特別補佐

議事に先立ち，平成 24 年度第 1 回宇都宮大学経営協議会議事要録（案）を確認し，原案のとおり承認した。

### [議 題]

#### 1. 国立大学法人宇都宮大学役職員給与規程の改正について（案） 資料 1-1, 1-2, 1-3

学長から，資料 1-1 に基づき，国家公務員給与の臨時特例への対応について，これまでの経緯，給与改定の実施時期及び改正内容等について説明があり，資料 1-2（国立大学法人宇都宮大学役員給与規程の一部を改正する規程（案））及び資料 1-3（国立大学法人宇都宮大学職員給与規程の一部を改正する規程（案））について説明があった。

審議の結果，原案のとおり承認した。

（主な意見等）

- ・学内構成員にも説明されているかと思うが，大変な給与削減であり，モラルダウンしてはいけないので，それらの対応をしっかりとっていただきたい。日本の復興にも貢献していることを対外的にアピールしても良いのではないか。大学をさらに良くしていただくよう頑張ってもらいたい。

### [報告事項]

#### 1. 国立大学法人宇都宮大学学長選考会議委員について 資料 2

学長から，資料 2 に基づき，国立大学法人宇都宮大学学長選考会議委員について，選出にあたっての経緯等を含め報告があった。

#### 2. 平成 24 年度学生数について 資料 3

茅野理事から，資料 3 に基づき，平成 24 年度学生数（平成 24 年 5 月 1 日現在）について報告があった。

#### 3. 平成 23 年度学部卒業者・大学院修了者の進路状況及び就職未内定者への支援について

資料 4

茅野理事から，資料 4 に基づき，平成 23 年度学部卒業者・大学院修了者の進路状況及び就職未内定者への支援について報告があった。

（主な意見等）

- ・キャリア教育・就職支援センターにおける就職未内定者への支援は大変良い活動であるので，引き続き学生への支援を続けられたい。
- ・日本国内に就職を希望する留学生への対応や留学生と海外進出企業との情報提供等，連携が望まれる。
- ・栃木県経済同友会としても，インターンシップの受入れを積極的に推進していきたい。

## [意見交換]

### 1. 宇都宮大学における教育研究活動への取組について

配付資料

茅野理事から、宇都宮大学における教育研究活動等への取組みを紹介させていただき、意見等を賜りたい旨の説明があり、①農学部長、②基盤教育センター長、③国際学部長、④教育学部長、⑤工学研究科長の順にそれぞれ報告があった。

(主な意見等)

#### [農学部]

- ・栃木県は県土の60%が平野で、気候的にも大きな災害を受けることが少なく、大消費地(東京)に近いという農業には有利な地域である。栃木県知事もフードバレー構想を発表されており、経済同友会としても農業の振興に刺激を与えていこうというプランを持っている。  
本県の農業発展のために不足しているのは若いパワーであり、農業の優位性が宝の持ち腐れにならないよう、宇都宮大学農学部から本県農業へ智慧者(卒業生)を送り込んでほしい。
- ・農学部に限らず全体的なこととして、旧来の縦割りの学問ではなく、学際的なものに力を入れていくことは有り難い。今後も新しいことにチャレンジし、現場で活躍する人材を養成されることを期待している。  
(→教育観もご指摘のとおりであり、研究においても垣根を越えるという考え方が広まってきた。より一層促進していきたい。)

#### [国際学部]

- ・伝統ある大学の国際系学部は50~60年の歴史がある一方、様々なしぼりができる。宇都宮大学国際学部は18年の歴史を有しているとのことで、そういう意味では自由闊達に時代に合わせた国際学部のあり方について検討していくことができるのでは。企業においても、大企業のみならず、中小企業も海外進出を計画するようになってきており、その際が一番問題になるのは、多文化の中で日本にとっては良いと思われることでも失敗する事例が多いと聞いている。大いに実業界でも宇都宮大学国際学部をPRして、宇都宮大学にまづ相談に行った方が良いと強く薦めたいと思う。頑張ってください。  
(→本学部においても、経済界の皆様にご期待しているので、よろしくお願いしたい。)

#### [工学部]

- ・どの学部でも同じであるが、基礎教育をしっかりと行うことが大切である。これからは問題が複雑化し、しかも大きなシステムの中で物事がいろいろと動いていくと、バランス良く考えることも必要で、そのような中で、どの学部も問題解決型に取り組まれているが、問題発見型の方向へ導いていくと、より一層、社会で役に立つと考えられる。  
(→一部授業では、課題を与えるのではなく、自ら課題設定を課す試みも行っている。)
- ・技術者倫理の授業は、学部における座学なのか。  
(→それぞれの学科において工学倫理の授業が組み込まれており、内容は各学科に任されている。将来的には、共通のフォーマットが必要かと思われる。基本的には座学とディスカッション、ケーススタディーで展開している。)
- ・大学改革において、アンブレラ方式が議論されており、おそらくマネジメントと教育の分離の検討が進むのではないかと。どちらかと言えば、マネジメント改革の必要性を感じている。今後、急ピッチで変わってくるのではないかと感じている。

以上